

平成25年12月2日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成25年度NGO相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力NGOセンター

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：国際協力キャリアフェア2013
- 実施日時：平成25年11月30日 11時00分～17時00分
- 場所：TKP カンファレンスセンター5階（東京都新宿区）
- 出張者氏名：松尾沢子、津島由美子

2. 実施内容

国際協力キャリアフェアは、国際協力業界での就職・転職を希望する一般来場者を対象に開催されており、当日は政府機関、国際機関、企業、教育機関（大学・大学院・留学）、NGOなど約20団体が出展、来場者数約450名に対応をした。

当センターは相談員ブース（2カ所）に常時合計3名を配置し、国際協力の分野への就職・転職に関する相談対応を実施した。相談員ブースとは別会場で開催の各種セミナー終了時などは、多くのセミナー参加者が相談員ブースへ移動し、対応をお待ちいただく時間帯もあった。以下、対応詳細。

- ・相談対応件数：約35件
- ・主な相談者層：学生、社会人（学生が過半数）
- ・主な相談内容：
 - ・NGOという組織全般、働く環境について知りたい。
 - ・当該団体の活動について知りたい。
 - ・仕事をつづけながら国際協力の活動に携わりたい。
 - ・国際機関で働くためのキャリアパスのひとつとしてNGOで働くことについてどう考えるか。

- ・社会人から転職する場合、NGOでの現場体験と大学院での専門知識の習得の組み合わせ方をどう考えたらよいか。

3. 所感

- ・有給職員としての就職相談の他にインターン制度についての問い合わせや実際にインターン活動を始めたいとの相談が日ごろの相談対応時に増えている実感から、相談ブースに当団体のインターン経験者を配置し、経験に基づいたより具体的な情報の提供を行えるよう配慮した。
- ・過去に当方が他のイベントで相談対応した来場者が数名参加しており、積極的に情報収集をしている様子うかがえた。国際協力分野で働くことを考えている個人に対し、本件も含め情報収集に役立つイベントが多く開催されることが必要と感じた。
- ・例年のことであるが、本年のキャリアフェアでも地方在住者が上京して積極的に情報収集している様子が見受けられた。
- ・相談ブースにいらした参加者の中には、NGOについてよくご存じでない方もおり、そのような相談に対しては、NGO、政府機関だけでなく、当該イベントに参加のさまざまなアクターが国際協力に関して協働関係を持って活動している状況を積極的に伝えるように心がけた。国際協力についての基本的な情報について、広く市民に知っていただける機会となった。

今後も継続的に本イベントのような場で、NGO・国際協力分野で働きたいという一般市民の相談に対応することにより、国際協力についての情報を伝えることは、本出張サービスの重要な役割と言える。

相談対応の様子



平成 25 年 11 月 25 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特定非営利活動法人)
日本国際ボランティアセンター



NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

記

1. 企画名：(1)「ラオス[森林保全と持続的な農業の推進]の考え方」
(2)「開発と環境保全は共存できるのか～ラオスにおけるケーススタディで学ぶ～」
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】
2. 出張者氏名：平野 将人 (ラオス事業担当)
3. 依頼元／主催等団体名：
 - (1) 新潟大学
 - (2) 特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター
4. 実施日時：
 - (1) 平成 25 年 11 月 23 日 (日) 10 時 30 分～12 時 30 分 (撤収含む)
 - (2) 平成 25 年 11 月 23 日 (日) 14 時 00 分～17 時 30 分 (準備撤収含む：休憩 15 分)
5. 実施場所：
 - (1) 新潟大学サテライトキャンパス「ときめいと」(新潟駅南口「プラーカ 1」2 階)
 - (2) 新潟市民活動支援センター (新潟市中央区西堀前通 6 番町 8 9 4-1)
6. 実施内容報告
(1)「ラオス[森林保全と持続的な農業の推進]の考え方」

①概要

同学の教養科目「開発途上国の環境と開発：事例研究」では、開発事業とその環境への影響をテーマとするアジア途上国へのスタディツアーを毎年行っており、事前の学習・調査、ならびに事後の学習を行っており、現地訪問等の経験を他の学生と共有するため、毎回報告会を開く。今回の報告会において JVC より出張者も講演し、履修した学生たちが JVC の考え方、プロジェクトのやり方等について更に学ぶともに、聞きに来る同学や他大学の学生、市民の方々が、開発途上国への協力について更に理解を深める機会とした。

②参加人数

学生、教員、社会人で計 10 名

③内容、所感

当初 11 時から 12 時に自身の講義からの参加とされていたが、早めに到着して学生のプレゼンテーションにも参加した。学生はラオスのほかカンボジアにも行っており、自分の印象に残ったことをテーマに選んでいたが、出張者はカンボジア滞在経験もあることもあり、全てのプレゼンテーションにコメントした。特に、村人について教育がないから〇〇ができない、〇〇が足りない、意識が低い、といったコメントが目立ったため、現場を知る立場から、村人の逞しさ、強かさ、彼らなりの合理性といった視点を提示することを心かけた。

講義は 11 時半から 12 時半に、開発学の授業ということで、ラオスの現在の社会体制、国作りの方針といった背景も交え、JVC ラオスの事業方針を説明し、開発のあり方を問う内容とした。少人数だが、全員が現地を訪問していることもあり、非常に熱心な受講態度であった。

(2)「開発と環境保全は共存できるのか～ラオスにおけるケーススタディに学ぶ～」

①概要

新潟国際ボランティアセンターは、国際協力啓発事業として毎年公開講座を開催しており、今年度は年に 6 回程度のワークショップを企画している。今年度はミレニアム開発目標に合わせたワークショップを行っており、「目標 7 環境の持続可能性確保」、「目標 8 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進」をテーマに、協力団体として活動している日本国際ボランティアセンターより、環境や開発に関する課題について、ラオスという国を事例として参加者と一緒に学んだ。

②参加人数

学生、社会人、NGO 関係者で計 18 名

③内容、所感

ケーススタディを使って環境と大型経済開発の両立を考えるというテーマが明確であったため、これに特化した内容とした。ケーススタディには大規模なゴム植林と金の掘削の 2 例を用い、どうしてそのような環境破壊的なケースが発生してしまうのかを説明した。その上で、最後は 4 グループに分かれて「〇〇すれば環境保全と大型経済開発は両立する」という〇〇を考えてもらい、それぞれ発表した。企業と村人の対話の機会の設置や村人の教育による意識啓発といった草の根での解決策から、先進国の介入といったグローバルな視点を持ったものまで、幅広い意見が出されたが、最後に企業を教育する、行政の法執行能力を強化する、開発から利益を得る先進国の人々のライフスタイルを見直す、といった、そこでは出なかった視点を出張者から補足し、まとめとした。実際にラオスでのボランティアを経験した/考えている参加者も多く、フレンドリーかつ熱心な空気の中で行われた。

7. 交通費

(1) 交通費概算：20,140 円（新幹線往復）

(2) 経路：上越新幹線：上野駅－新潟駅（往復）※事務所－上野駅間は徒歩。また、新潟駅－会場、会場間が含まれない。

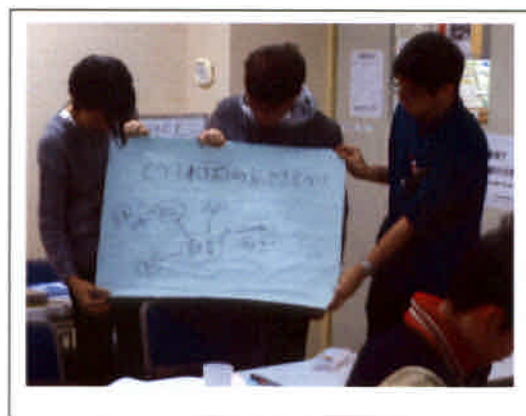
(3) 開催場所までの距離：片道 約 350km

8. 宿泊：有（無）

9・日当 1,100 円

以上

当日記録写真



上 2 件の写真は、(2) のセミナーの様子。左上写真の奥が発表中の報告者。右はグループで考えた解決策を発表する様子。左下は (1) の講演の様子。

2013年12月9日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人
アジア日本相互交流センター・ICAN
代表理事 田口 京子



NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：国際交流フェスティバル2013 in TOYAMA

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：中村 由実子

3. 主催団体名：富山市民国際交流協会

4. 実施日時：2013年11月10日(日) 10:30～17:00

5. 実施場所：富山駅南C i Cビル（富山県富山市新富町1-2-3）

6. 相談対応件数：13件

7. 企画概要：

富山県富山市で開催された「国際交流フェスティバル2013 in TOYAMA」において、NGO活動への理解浸透を促進することを目的に、相談対応業務を行った。

8. 所感及び効果：

国際交流に関心を持つ人が集まるイベントであったものの、NGOに馴染みのない来場者は限られていた。相談者の中には、国際理解教育の仕方について悩む中学校教師や、どのようなボランティア活動が可能かを問う学生など、具体的な質問をする人もいた一方で、NGOとは何か、という組織や活動全般に関する根本的な質問をする人も、普段の相談対応に比べると多かった。NGOという言葉や活動そのものがまだあまり浸透していない地域において、それらに対する理解を少なからず広めることができたのではないかと考察している。



以上

2013（平成 25）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 黒河内政行

1. 企画名：

「2013 秋スタディツアー説明会～行ってみよう！もうひとつの旅～」NGO 相談員ブース出展

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成 25（2013）年 11 月 9 日（土） 13 時 30 分～17 時 00 分

場所：龍谷大学 大阪梅田キャンパス
（大阪市北区梅田 2-2-2 ヒルトン
ブラザウエストオフィスタワー14 階）

主催：株式会社マイチケット、龍谷大学、
特定非営利活動法人関西 NGO 協議会

出張者氏名：黒河内政行



2. 実施内容：

年末年始から来年春にスタディツアーを実施予定の NGO や市民団体が一同に集まった説明会が開催された。スタディツアー、国際協力に関心を持つ方々が参加し賑わいをみせた。第 1 部ではスタディツアー入門のプレゼンテーションに続き、各団体がツアーの内容や特徴、過去の参加者の声を紹介した。第 2 部では参加者が興味を持った団体のブースで説明を聞き、個別に質問する時間となった。

当会は、関西の国際協力 NGO の広報支援を担っていることもあり、NGO 相談員として、スタディツアーに興味をもち、国際協力に関心がある参加者の「スタディツアーについて」や「国際協力活動に参加するには」などの幅広い相談に対応した。

3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：約 40 人、

ブース出展：15 団体（マイチケット、関西 NGO
協議会を含む）

4. 所感及び効果等：

参加者の多くが学生で、スタディツアーの具体的な質問とともに、国際協力 NGO について、様々な内容の相談があった。

相談者が求める情報だけでなく、相談者の質問から、できる限りニーズや知見の把握、理解に努めた。客観的な立場から相談者にあった情報を提供し、情報の入手可能な団体の紹介を行った。

NGO、フェアトレードなど国際協力に関する様々な質問があり、国際協力全般への関心の高さを実感した。NGO とはどのような団体組織なのかといった質問から進路の相談まで、幅広い質問に対応した出張サービスとなった。



以 上

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：2013年度開発教育連続セミナー

※出張形態：相談対応ブース

2. 出張者：井上理子（(公財)PHD協会職員）

3. 実施日：2013年11月24日（日） 10:00～16:00

4. 場所：公益財団法人大阪国際交流センター
（大阪市天王寺区上本町 8-2-6）

5. 対象者：開発教育・国際協力に関心のある教育機関関係者、一般の方々。

6. 実施報告：公益財団法人大阪国際交流センター、独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA 関西）による共催で上記のセミナーを開催し、兵庫県国際協力推進員との連携で相談員対応ブースを設けた。本セミナーは国際理解教育・開発教育に興味のある教職員・学校関係者または学生を対象としており、約30名の方が参加された。最初にNGO相談について説明する時間もらい、内容について説明を行った。実際の相談としては上記ワークショップの合間に相談員ブースに来ていただくという時間的に制約があったためブースに座って相談者を待っているのではなく、積極的参加者に声をかけて行き、雑談の中から情報提供や相談を受けた。教育関係者からの相談ではどのように開発教育を導入するかという相談があり、すぐに活用できそうな教材や当協会が現在関わっている教育機関との繋がり方等を例に挙げてわかりやすく伝えた。また講師派遣や相談員ブース開催の事業についての情報提供は十分にでき場であったため、今後の連携に繋げたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を2枚添付



2013年度開発教育連続セミナー様子①
相談者の対応をしているところ。



2013年度開発教育連続セミナー様子②
相談者の対応をしているところ。

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「天保山まつり」NGO相談員の情報&相談コーナー
【形態：相談対応サービス】
2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 西 保彦
3. 依頼団体 天保山にぎわいまちづくり実行委員会
4. 実施日時 2013年11月10日(日)10:00～17:00
5. 実施場所 築港赤レンガ倉庫広場(大阪市港区海岸通二丁目7-23)

6. 実施報告

(1) 企画概要

- ①当協議会は本イベントにNGO相談員の出張サービスとして出展し、情報&相談コーナーを設置して、国際交流・協力活動の情報提供と個別相談を行った。
本イベントへの参加者、参加団体など今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民へNGO相談員制度の紹介を広めることを目的とした。
- ②「天保山まつり」は天保山・築港地区の歴史的価値・特性を再発見し、地域住民やNPO団体、地元企業などの参加を促し、街の活性化を目的として今年度で4回目の開催となる。実施会場はメイン会場である赤レンガ倉庫広場の他、天保山ハーバービレッジエリア、築港天保山なかまちエリア、港商店街、中央突堤エリアなど5つの会場にわかれており、今回は歴史和船(菱垣廻船)復元巡航をおこない、多くに市民参加を促していた。メイン会場では、ブース出展のほか、ワークショップ、ライブ、ステージショーなど、幅広い層に参加してもらえるよう多様なプログラムを実施していた。
- ③ブース協力団体として本協議会以外にもアムネスティ・インターナショナル、アーユス仏教国際協力ネットワーク、NPO法人ホームドア：ハブチャリ(生活保護者支援のレンタルサイクル事業)などの非営利セクターが参加した。

- (2) 参 加 者 <ブース個別相談対応> 11月10日(日) 合計11名
<天保山まつり全体>
スタッフ： 約80名
来場者総数：約3,500名(昨年約2,500名)

- (3) 相 談 内 容 ①NGO/NPOへの就職について…2件
②ボランティア活動参加について…3件
③国際イベント情報・ワン・ワールド・フェスティバルについて…6件

- (4) 相 談 者 区 分 [学生]1名 [社会人]7名 [主婦]2名 [行政関係者]1名

7. 全体的な感想

「天保山まつり」は大阪の海の玄関口である大阪市港区で行われる、区民・行政・企業が一体となったイベントであり、天保山・築港エリアに点在する歴史・文化・観光資源を見直すことで、この地域の魅力と、かつて大阪に富をもたらした海が存在を再認識し、地域活性化と共に歴史的施設(赤レンガ倉庫)保存などの意識付けすることを目的としている。今年度は、「まつり」のシンボルとして江戸時代に活躍した木造大型和船「菱垣廻船」(江戸時代における大阪繁栄の象徴とも言える船)の完全復元(3年後)を目指し、船体のパレードが実施された。これは街の活性化、さらに“天下の大阪”への足掛りとなることを期待して実施され、昨年以上に地域活性色と歴史保存感を印象付けていた。

開催エリアは観光スポット(海遊館・天保山ハーバービレッジ等)や地元商店街を含む広域で行なわれ、地元の商店街店舗や小学校・中学校も協力してバザーを実施、イベント会場では和太鼓演奏、文楽・義太夫がおこなわれ、「和」の雰囲気以外にユニバーサルスタジオジャパン勤務の外国人寮が同地区に在るため、会場内で国際的なイベントの雰囲気も出していた。

当日は、あいにく小雨が降っていたが、木造大型和船「菱垣廻船」巡航のイベントがあり、総来場者は昨年より約1,000名増加した。来場者は中高生・社会人・家族連れが多く、NGO相談員ブースでは国際協力イベント(特にワン・ワールド・フェスティバル)に関心を持つ方が多く、既に同フェスティバルを知っている方もおり、ブースには設置したパンフレットやイベントチラシが欲しいと来られる方が目立った。ブースを訪れた方々には必ずNGO相談員制度のチラシを渡し、国際協力やNGO活動での相談に対応することができる制度があることを紹介し広めた。

8. イベント開催時の風景



相談ブースと相談員



相談対応ブース



相談対応ブース



会場の様子

平成 25 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として出張サービスを実施したので、内容をご報告いたします。

記

1. 企画名: 2013 年国際交流・協力の日
2. 形態: 相談対応サービス
3. 出張者氏名: 山上 正道
4. 依頼元/主催団体名等: 「国際交流・協力の日」実行委員会
5. 実施日時: 平成 25 年 11 月 17 日(日)10 時 - 16 時
6. 実施場所: 広島国際会議場、平和記念公園(広島市中区中島町)
7. 実施の内容:
平成 25 年 11 月 17 日(日)に広島国際会議場、平和記念公園(広島市中区中島町)にて開催された国際交流・協カイベントの市民団体等活動紹介コーナーにて NGO 相談員ブースを出展し、相談業務にあたった。
来場者数は 8,600 人で過去最高となった。相談員ブースでは 20 件の相談に対応した。
8. 所感・効果:
「国際交流・協カの日」は、主に広島市内で国際交流・協カ活動を続けている市民団体、企業などが中心となって平成 12 年度から毎年開催しており、今年で 14 回目の開催となる。公演やバザー、ブース出展など、多彩なプログラムに約 70 団体が出店している。イベントの規模は中国地方最大で、来場者数、出展団体数も他県の 3~4 倍となっている。しかしながら、相談件数に関しては大きな差はなかった。質問の内容はインターン・就職やファンドレイジング、NGO 連携無償基金、大学との連携、各国事情などと多岐にわたっていた。チラシやポスターを見て相談に来られる方が多く、このような相談についてどこに行けばいいのかわからなかったのも、このようなサービスはありがたいとコメントもいただいた。対応については、NGO やその活動内容から事例に基づいた具体的な情報を提供できたのではないと思う。



出展した市民団体等活動紹介コーナー



屋外の飲食コーナー



相談に来た社会人



相談に来た学生

平成 25 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
小林 麻衣子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として出張サービスを実施したので、内容をご報告いたします。

記

1. 企画名: NPO 論
2. 形態: 講演
3. 出張者氏名: 小林 麻衣子 (海外事業部プログラムコーディネーター)
4. 依頼元/主催団体名等: 島根大学法文学部 毎熊浩一准教授
5. 実施日時: 平成 25 年 11 月 26 日 (火) 12:45~14:15
6. 実施場所: 島根大学構内 (松江市西川津町 1060)
7. 実施の内容:
上記大学学部法経済学科 2 回生の必修科目である「NPO 論」において、大学生約 80 名を対象に、国際協力 NGO についての一般的な状況や開発分野で求められる役割、ならびに当法人の活動内容及びネパール事業の現状について情報提供を行った。
8. 所感・効果:
同講義は、日本国内における地方行政及び NPO の連携に基づいたまちづくり等が主題となることが多く、海外の事例を扱う機会が少ないため、発表者の経験に基づいた海外諸国の話については興味を持って聞いてもらえたように感じた。
もともと国際協力や、当法人の活動分野に該当する保健医療と直結した学部ではないこともあり、活動の詳細に関する質問は挙がらなかったものの、国際協力や NGO で働くことについての理解を促すことができたものと考えます。
また、国内か海外かという点で異なるものの、地方行政やコミュニティが中心となるひとづくりやまちづくりへの取り組みという点では共通する課題や問題も多く見受けられた、というコメントも聞かれたことから、国際協力に関心がある層だけに対象を限らず、幅広い対象者への多様なアプローチを通じて、国際協力への理解を促すことが可能であると実感することができた。

以上

当日の写真



会場の島根大学



発表者



会場の様子



質問に対応する発表者

平成 25 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
村上 久子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名：外国の児童の実態(ザンビア)と日本の NGO/NPO の活動について
2. 形態：講演
3. 出張者氏名：村上 久子
4. 依頼元/主催団体名等：備前市伊里小学校教員 金子 安津美、渡辺 誠
5. 実施日時：平成 25 年 11 月 29 日(金)9 時 40 分ー10 時 25 分
6. 実施場所：備前市伊里小学校(住所：岡山市備前市友延 350 番地)
7. 実施の内容：

上記小学校の 6 年生 2 クラスの合同授業において 49 名(小学生 47 名、教職員 2 名)に対し、日本の NGO/NPO が実施する国際貢献活動について話をした。事例として当団体の活動からアフリカ(ザンビア)の児童の実態と当地での NGO/NPO 活動について動画や写真のスライドショーの鑑賞なども交えて講演を行った。

8. 所感・効果：

講演を通じて、子どもたちにアフリカのこどもたちの生活の実態や当団体の NG/NPO 活動について知ってもらうことができた。出張者は今年 3 月までザンビアに駐在しており、ザンビア以外にも長いアフリカ駐在経験を持ち現場での活動の実際やザンビアの児童の現状について、事例に基づいた具体的な情報を提供することができた。聴講した児童は、「アフリカには四季がない(乾季と雨季に分かれる)」ことに大変驚いた様子だった。現地の学校の動画を見て「服が自由だ。この学校は制服がない。」と思った児童がいた。同校が「家が貧しく制服や文房具を買えないため学校に

通えない子どもたち」を受け入れていること、また同校の児童は両親または片親がエイズで亡くなったという話なども真面目に聞いていた。写真を見て「裸足でサッカーしている」「ゴミがたくさんあって汚い」とザンビアの貧困層の住むスラム街の暮らしの厳しさの一端を感じたように思われた。講演後、担任から「普段あまり落ち着きがない」児童たちが出張者に質問をしたり、意見を述べたりしていて良かったという感想をいただいた。聴講者に国際理解への興味を持つきっかけとなる有意義な出張サービスになったと考える。

また、聴講児童はカナダ人の教師から週1回英語の事業を受けているとの事で、出張者からの簡単な英語の声掛けに応える場面も見られ、英語を身に着けることが国際理解への第1歩であり英語は大切な道具であるという情報を提供できたと考える。



6年生の担任から紹介を受ける出張者



講演を行う出張者



現地の映像を興味深く見る児童たち



講演終了後質問に来た児童たち

平成 25 年 12 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内 よし子

NGO 相談員による出張サービス実施報告

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「城山門前まつり」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：竹内 よし子

2. 依頼元／主催等団体名：大街道 3 丁目まちづくり委員会

3. 実施日時：平成 25 年 11 月 3 日（日）14 時 00 分～16 時 00 分

4. 実施場所：大街道（ローブウェイ商店街）（愛媛県松山市）

5. 参加人数：約 3 万人

6. 実施内容および所感、効果：

「城山門前まつり」は、地域活性化のため毎年 11 月に市内中心部の大街道（ローブウェイ商店街）通りで開催されている。商店、企業、市民団体等のさまざまな出展（店）ブースや企画イベントがあり、去年は来場者 3 万人が訪れた。

今回、東ティモール支援を行っている NGO と共にブースをアレンジし、「NGO 相談員出張サービス」を開設した。

四国で行われているさまざまな国際協力活動、NGO 相談員制度と ODA についての情報提供を行うとともに、来場者の質問・相談に対し、以下の通り対応した。

〔相談件数〕 4 件

〔主な対応内容〕

- ① **相談内容** 国際協力活動についてほとんど聞いたことがないので、教えて欲しい。

対応 高校生が行っている事例として高知商業高校がラオス支援を行っている内容を伝えた。

- ② **相談内容** 高校生の時に新玉小学校のアフリカンキャンプで、ボランティアしたことがあり、国際協力にもアフリカにも興味がある。モザンビークの事業はどのように進んでいるのか教えて欲しい。

対応 社会人となってもボランティア・インターンの形で参加できることを説明し、JANIC のガイドや会報など、国際協力 NGO の情報を提供した。

- ③ **相談内容** 国際理解教育に興味がある。どのような具体的な活動があるか知りたい。

対応 ESDに関する情報を提供し、国際理解教育で年間を通じて学校とNGOが連携している事例を紹介した。

- ④ **相談内容** NHKラジオでNGO相談員のことやイベント案内などを聞いている。何か国際協力活動について勉強できたら、と思うが方法を教えて欲しい。

対応 生涯学習センターで開催している「国際理解講座」があり、NGO活動について学べるので受講する方法を紹介した。



雨の中での相談者対応



ボランティア活動への参加を説明

以上

平成 25 年 11 月 11 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「北条ふれあいセンター文化際」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：澤上 幸子

2. 依頼元／主催等団体名：松山市役所 人権啓発課

3. 実施日時：平成 25 年 11 月 11 日（日）10 時 00 分～16 時 00 分

4. 実施場所：北条ふれあいセンター（北条中央会館）2F （愛媛県松山市）

5. 参加人数：（来場者数）約 500 人

6. 実施内容および所感、効果：

「北条ふれあいセンター文化際」は、人権啓発のための交流・ふれあいの場の提供や心ふれあう地域づくりを目的として開催している。今回は販売ブースに NGO 相談員デスクを設置し、以下のとおり来場者の質問・相談に対応した。

本文化際には、毎年出展していることから、この地域において徐々に国際協力や NGO について情報を知りたいと思う方が多くなっていると感じた。また、展示していたフェアトレード商品を手に取り、フェアトレードと国際協力の関わりに関心を示す来場者も多く、地域における国際理解のさらなる広がりが期待できる。

【相談件数】5 件

【主な対応内容】

- ① **相談内容** えひめグローバルネットワークは NGO として、どのような活動をしているのか質問があった。

対応 えひめグローバルネットワークが掲げる「持続可能な社会の実現に向けて」、国際協力事業、環境保全事業、ESD 事業、ネットワーク事業を柱として活動している旨説明を行った。他の NPO 法人とのフェアトレード商品開発における連携の可能性について話をした。

- ② **相談内容** フェアトレード商品について、販売場所、商品の種類について質問があった。

対応 『フェアトレード雑貨カフェ WAKUWAKU』を紹介した。文化際会場に展示していたモザンビークのパナナペーパー・カブラーナ、フィリピンの箸ふくろなどを見ていただく。国際的な貿易をより平等にするために行われる、フェアトレード制度の意味を説明した。

③ **相談内容** 東ティモールの位置・言語・教育・治安など教えて欲しい。

対応 東ティモールについて、言語がバラバラで教育が進まないことなど現状を説明した。



相談者対応



相談者対応



イベントの様子

以上

平成 25 年 12 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内 よし子

NGO 相談員による出張サービス実施報告

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「国際交流市民ボランティア入門 - 国際交流活動ガイダンス」
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】
出張者氏名：竹内 よし子、小元 美咲

2. 依頼元／主催等団体名：まつやま国際交流センター
3. 実施日時：平成 25 年 11 月 23 日（土）14 時 00 分～16 時 00 分
4. 実施場所：COMS - 松山市男女共同参画推進センター（愛媛県松山市）
5. 参加人数：40 名
6. 実施内容および所感、効果：

「国際交流市民ボランティア入門講座」は、市民が国際交流・協力に関わるボランティア活動の第一歩を踏み出すきっかけづくりとなることを目的として開催された。

今回の講座「国際交流活動ガイダンス」では、松山市内・近辺で活動する多くの国際交流・協力団体が参加し、それぞれの活動紹介が参加者約 40 名を対象に行われた。

講座受講者は、国際協力・交流に高い関心を持つ市民であることから、当団体の経験を活かした個別対応を行い、講座に出展している他団体とも連携して受講者のニーズに応えた。来場者の質問・相談内容は以下の通りである。また、今回、フィードバックシートを活用し、別添 6 件の相談対応について記入の協力を得ることができた。

【相談件数】6 件

【主な対応内容】

- ① **相談内容** えひめグローバルネットワークの活動内容の詳細が知りたい。
対応 団体活動について詳細な説明を行った。
- ② **相談内容** 生活の中でできる国際協力・ボランティアについて知りたい。
対応 四国（特に愛媛県）で活動している NGO・または開催されるイベントの紹介を行い、消費行動を通じた国際協力という位置づけにおいてフェアトレード商品を扱っている wakuwaku カフェ・ショップを紹介した。

③ **相談内容** アフリカ・モザンビークの生活について知りたい。

対応 モザンビークの気候・生活・経済などについて、自身の滞在経験を元に説明し、情報提供した。

④ **相談内容** どのような国際協力活動ができるか知りたい。

対応 資料・情報の提供を行い、イベントの案内を行った。社会人でボランティア活動に参加している人もいるため、事例を紹介した。

⑤ **相談内容** 企業とNGOの連携について興味がある。どのような可能性があるか知りたい。

対応 12月14日、JANICと共催で開催する「NGO×企業」連携促進シンポジウムの案内を行い、BOPビジネスやCSR、コミュニティビジネスとフェアトレードのコラボなどについて情報提供した。また、愛媛では、エジプトで障がい者支援を行っている団体(オレンジプラネット)が学校や企業とコラボして活動しているので紹介した。



相談対応の様子

以上

(特活)NGO 福岡ネットワーク:NGO 出張相談報告書(平成 25 年 11 月)

(ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名:(特活)NGO 福岡ネットワーク

企画名:国際協力フェスタ「地球市民どんたく 2013」

実施日時:平成 25 年 11 月 9 日(土)、10 日(日)11 時 00 分～17 時 00 分

場所:アクロス福岡 2 階「交流ギャラリー」、「セミナー室」(福岡市中央区天神1-1-1)

(イ) 実施内容

本企画は、NGOなどの団体が、パネルや写真の展示などにより、市民に各団体の活動を紹介するとともに、団体の活動発表やワークショップなどを行う。これにより、多くの市民に国際協力・交流活動への関心と理解を深めてもらうことを目的として開催された。

参加団体はそれぞれブースを設け、団体の活動を紹介するパネルを展示したり、民芸品やフェアトレード商品を販売したり、工夫を凝らしたブースで来場者を出迎えていた。各団体の活動にまつわる問題をブースに設置し、すべてのブースの問題に正解してスタンプをもらった人に商品をプレゼントするというスタンプラリーも行った。

また、セミナー室では参加団体によるワークショップや講演の開催など、来場者に様々な視点から国際協力・交流を学んでいただく企画を実施した。

当団体は会場の一角にブースを設け、来場者から寄せられる NGO や国際協力に関する様々な相談に対応した。

(ウ) 集客人数

来場者数:1,000 人(2 日間合計)

所感及び効果等

本企画は毎年開催されているが、福岡唯一の国際協力・交流の大きなイベントであるため、集客も多く、相談対応や団体の活動紹介、市民への啓発の場として重要な役割を担っているものである。今回は世界に目を向けることと併せて、私達が住む日本や地域のことも目を向けることをテーマに開催した。

来場者からは NGO に関する基本的な相談やボランティアやインターンに関する相談などが寄せられた。こうしたイベントでは NGO や国際協力についてよく分からないので教えて欲しいといった入門的な相談が寄せられる事が多いが、今回の出張サービスにおいてはそうした入門者目線に立った丁寧な対応を心がけることができた。

出張サービスでの相談によって、そうした関心を持つ市民がさらに国際協力への関心を持ち、次の行動に移してもらえたらと願ってやまない



相談対応の様子



日本文化を体験する

(特活)NGO 福岡ネットワーク:NGO 出張相談報告書(平成 25 年 11 月)

団体名:(特活)NGO 福岡ネットワーク

出張サービス企画名:VCN 福岡 11 月学習会

実施日時:平成 25 年 11 月 25 日(月) 19:00~21:00

場所:福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」セミナールーム

(ア) 実施内容

本学習会は、主に福岡でボランティアのコーディネーションに取り組む人たち(市町村のボランティアセンター窓口など)の相互研鑽を目的として毎月 1 回開催している企画である。

11 月は、ボランティアコーディネーターネットワーク福岡(VCN 福岡)の設立総会と共に、国際協力のボランティアコーディネーションと題した講演が設定され、NGO の基礎知識や当団体のボランティアコーディネーションについて講演と質疑応答を行った。

(イ) 集客人数

参加者数:11 人

所感及び効果等

今回、新団体である VCN 福岡の設立総会にあわせて開催された学習会に講師として招いていただいた。参加者は普段からボランティアセンターの窓口などで市民からのボランティア希望などの相談に対応している方々ばかりであるが、国際協力や NGO に関する情報を持ち合わせていないということで、そうした基礎知識の共有から講演を行った。

参加者は普段からボランティアの相談に対応し、コーディネートする立場ということで、まずは正確な国際協力の情報を得ていただきたいと考え、NGO の理念や特徴、具体的な活動などを交えての堅苦しい講演となってしまったが、飲み込みと理解の早さに感嘆するばかりであった。

大きなテーマとしては、「NGO でのボランティア希望者にどのように対応すべきか」という参考を得ていただきたいと考えて講演と質疑を行った。国際協力 NGO のボランティアといえど、実際の活動は NPO のボランティアと変わらないということ、ボランティア活動が世界の課題解決に結びついている実感を与えること、ボランティアコーディネーションとは希望者と団体を単につなげるだけでなく NGO の存在意義を意識しながらコーディネートすること、異なるものがつながって新たなものを生み出していくこと等を意識することの重要性を伝えることができた。

NGO 相談員事業においても、ボランティアをしたいという相談は日々寄せられる。NGO 相談員と同様に市民からの幅広い相談に応じている仲間と出会い、相談業務への新しい気づきや学びを得ることができた点で大変に成果のあった出張サービスであった。



講演の様子



参加者の様子

平成 25 年 11 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名：沖縄こどもの国ドリームフェスティバル 2013「笑顔ひろがる OKINAWA」
『ひらけ！地球のトビラ』
2. 実施日時：平成 25 年 11 月 3 日（日）11 月 4 日（月）10 時～17 時
3. 実施場所：沖縄こどもの国（沖縄市呉屋 5-7-1）ドリームフェスティバル 2013
4. 実施内容：「みんなを笑顔にしたい」という思いから開催された親子対象のイベントにて、親子で参加し楽しめる「ひらけ！地球のトビラ～親子でいろんな文化に出会おう～」ブースの出展を行った。世界のお話の読み聞かせ、民族衣装や民族楽器の紹介と体験コーナー、また留学生がボランティアとして関わり、それぞれの文化を紹介しながら子どもたちと触れ合い交流した。親子で世界の多文化について触れ、楽しむ機会を作った。また、地域での多文化共生についてのアンケートとして、外国人と交流する際にやってみたいことは何かという意見を集めた。同時に当センターの活動紹介や NGO 相談窓口についての広報も行った。
5. 参加者人数： 総勢 1000 名
6. 所感及び効果：世界の民族楽器や衣装を楽しむことで世界の文化の多様性に触れてもらう機会となった。親子で民族楽器に触れ、奏でることで会話が生まれ、たくさんの子供たちの笑顔が見られた。ひとりでブースに来た中学生は、世界の絵本を見ながら、将来海外で勉強したいこと、そのためにはいまだどんなことが必要なのかと相談した。また学生時代に NGO について学んだという子供を連れた女性は、大学卒業後は NGO 活動やボランティア活動等に関わることがなかったが、これから機会をつくって参加したいと話した。地域の多文化共生をめざし、やってみたいことのイメージとして、いろんな人とピクニックしながら交流したい、料理を知りたい等の声があった。留学生を含む地域の在住外国人と地域住民が気軽に出会い、お互いを知り、理解しあう機会を作ることで顔の見える関係が構築され、誰もが安心して暮らせる多文化共生のまちづくりを目指した活動の必要性を感じた。



平成 25 年 11 月 5 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名：国際協力・交流フェスティバル 2013「うちなーから世界の舞台へ！～未来への挑戦と結の創造～」
2. 実施日時：平成 25 年 11 月 9 日（土）11 月 10 日（日）10 時～18 時
3. 実施場所：JICA 沖縄国際センター（浦添市前田 1143-1）
4. 実施内容：JICA 沖縄で開催されるイベントにて、親子で参加できる「ひらけ！地球のトビラ～親子でいろんな文化に出会おう～」というテーマでブースを出展し、民族衣装・楽器紹介や体験コーナーを設け、来場者に直接体験していただき、親子で世界の多文化について知り楽しむ機会をつくることができた。同時に当センターの活動紹介や NGO 相談窓口の広報を実施。加えて、JICA 沖縄開発教育支援事業でザンビアへ派遣された 8 名の先生方も同ブースで報告を行い、ザンビアやガーナなどアフリカの研修生との交流、ダンスワークショップや布を使ったワークショップなども行うことができた。
5. 参加者人数：総勢 5900 名
6. 所感及び効果

今年は親子連れも例年より多く見受けられ、当会のテーマはぴったりであった。直接モノに触れ、交流をし、体験を通して世界の多文化に触れていただくことができたのではないと思う。ブース内で、外国人と交流をしたいか、交流をするとしたら何をしたいか？という質問を投げかけさせていただいたが、多くの方が交流する機会を求めており、また共に体を動かしたり、食や音楽、遊びなど体験を通して交流したいという要望があることがわかった。これまでも外国人と交流する機会はどこにいけばあるか？などの質問が寄せられることも多く、沖縄の人々、在沖外国人が会う機会を創造することが求められているように感じる機会となった。

